



清南小だより

令和4年度
R4・10・26
清原南小学校

たくましい子・思いやりのある子・よく学ぶ子



—鶴ヶ城—

深まる秋が実りの秋に・・・

校庭の木々も色づき始め、秋の深まりを一段と感じさせる今日この頃です。今月の7日（金）に第1学期終業式を迎え、5日間の学期間休業日を経て、13日（木）より第2学期がスタートしました。子供たちは、気持ちも新たに、元気に学校生活を送ることができて嬉しく思います。

2学期は、様々な行事を控えていますので、それらが安全に実施でき、子供たちにとって心に残る思い出となるように努めて参ります。また、子供たちには、1時間1時間の勉強並びに1日1日の積み重ねを通して、心も体も豊かにたくましく成長してほしいと願っております。子供たち一人一人にとって、実りの秋となりますよう、保護者の皆様・地域の皆様にはご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長講話の紹介

〈1学期終業式の話〉

終業式は、1学期の振り返りの日です。担任の先生方から渡される通知表をもとに、振り返りをしましょう。先生方は、みなさん一人一人のよさをきちんと見取り、励ましてくださっています。

今日は、自分の夢やなりたい職業を叶えるためには、勉強が大切であるということについてお話しします。「きよなんドリームプロジェクト」において、みなさんは「自分の夢」を書きました。例えば、将来は「パティシエ」になりたいという夢をもったとします。ケーキを作ったり売ったりするためには、どんな勉強の力を必要とするのかを考えてみましょう。まず、お客さんはケーキを見て、おいしそうだから買おうと思いますね。だから、ケーキのデザイン、すなわち全体の形や色合いなどは重要です。このデザインを考える力は、図工や家庭科で身に付けた力を生かしてデザインを考えているのです。次に、材料です。生産量がともに日本一の栃木県産のイチゴ、北海道産の牛乳を使う。これは生産地と生産量を結び付けているので、社会で身に付けた力を生かしています。砂糖やクリームなどの量を決める際は、計算したり、はかりを使ったりするので、算数や理科で身に付けた力を生かしています。そして、値段は、算数で身に付けた力です。タブレットを使って、値段を計算することもできるので、パソコンを使う力も必要です。さらに、ケーキのおいしさ（味）を決めるのは、家庭科で身に付けた力です。そのおいしさをお客さん（相手）に分かってもらうためには、言葉で相手に伝えるので、国語で身に付けた力が必要です。外国の方もお店に来ますから、外国語で身に付けた力も必要ですね。これだけみても、今、みなさんが勉強している、いろいろな教科の知識・技能・考え方が必要であることが分かります。また、ほかの職業でも同じようなことが言えます。

みなさんが勉強していることは、何一つ無駄なことはありません。勉強している全てのことが、将来のみなさんにつながっていて、すごく大切なことなのです。小学校でしっかり勉強をして基本の力を身に付け、自分の夢を叶えたり、なりたい職業についたりできるように努力をしていきましょう。

〈2学期始業式の話〉

今日は、スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋についてお話をしたいと思います。まず、スポーツの秋と言えば、先日の11日に、いちご一会とちぎ国体が閉会式を迎えましたね。県内の選手も活



躍し、総合2位という立派な成績でした。いろいろなスポーツの種目があり、自分もやってみたいと興味をもった人もいることでしょう。これからは、過ごしやすい日が続くので、外に出て運動をしてみましょう。29日(土)からは、全国障害者スポーツ大会いちご一会とちぎ大会が開かれますので、こちら楽しみです。次は、食欲の秋です。秋はいろいろな作物が収穫の時期を迎えるから、食べ物がおいしいですね。みなさんが5月にサツマイモを畑に植えましたが、そのサツマイモ掘りが11月に控えていますので、今から楽しみです。秋の味覚を味わうことで、食生活を見直したり食べ物への関心を高めたりしてほしいです。

そして、読書の秋です。今日は、校長先生が小学生のころ読んで、心に残った本をみなさんに紹介します。それは、「野口英世」さんの伝記です。このお顔は、千円札に印刷されていますね。野口英世さんは、福島県に生まれ、2歳になる前に、左手に大やけどをおってしまいましたが、そのことをきっかけに医者になることを決心しました。母親、友達や先生方に支えられながら、寝る時間を惜しむほど勉強をし、人の何倍もの努力を重ね、世界的にも有名な医学者・細菌学者となりました。その研究の成果は、当時、難しい病気であった治療に役立ち、たくさんの人々を助けました。最後は、黄熱病という病気を研究中に、自分自身もこの病気にかかり、ガーナ共和国という国で亡くなりました。この本の中には、野口英世さんが日本で世話になった先生へ書いた手紙が記されていますので、みなさんにも紹介します。



「出発までは、わたしはゆめを見ていたのです。成功する人がえらい人だとばかり思いこみ、わたしもそればかりを願っていました。しかし、アメリカにわたり、いろいろな人を知り、いろいろな苦しいことにもあい、そしてさとりました。人間は、頭力だけではだめだ。それだけでは、たましいのない機械と同じです。わたしは頭以上に、人柄が大事だということに、やっと気がつきました。」

校長先生は、この手紙を読んで、人は、さまざまな経験や体験を通して、大切なことを理解して成長していくのだということ、そして、人は周りの人と関わりながら生きていくので、周りの人への心遣い、思いやり、やさしさ、あたたかさを大事にしなければならないということを改めて思いました。何十年ぶりに、この本を読み返して、小学生の時には気付かなかった、違った思いをもつことができ、とても新鮮な気持ちになりました。みなさんも、心に残しておきたい言葉などを書きとめておき、ときどき読み返してみるといいですね。そういった言葉の数々は、自分が悩んだときや困ったときに自分を支えてくれる、自分だけの大切な宝物となります。みなさんには、たくさんの本とふれあい、本を通して、心豊かな体験をしてほしいです。(※引用 野口英世 馬場正雄著 ポプラ社)

修学旅行に行ってきました ～20日(木) 21日(金)～



好天に恵まれた修学旅行でした。1日目は、会津若松市で赤べこ絵付け体験、会津武家屋敷及び鶴ヶ城見学をしました。2日目は、那須ハイランドパーク、那須とりっくあーとぴあにおいて活動・見学をしました。計画通りに、全ての活動を実施できたことは、6年生にとって大きな喜びになったことでしょう。そして、心に残る思い出もたくさんできました。

6年生のみなさんには、保護者の皆様や担任の先生方をはじめとして、多くの方々のおかげで修学旅行が無事に実施できたことに感謝するとともに、この旅行で得たものを今後の学校生活に活かしていくことを期待しています。

変えられるものが二つある。それは自分と未来だ。
野口 英世

★学校のHPからも活動の様子や各種便りをご覧になることができます。
また、緊急の連絡等は、メールと併せて配信いたしますので、ぜひアクセスしてみてください。

